

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス フタール岸和田		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		~ 2026年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		~ 2026年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床心理士、公認心理師、保育士、小学校教諭など様々な資格を有するスタッフが複数在籍しているため、それぞれの知識や経験、スキルを活かして多角的な視点から子どもたちをアセスメントし日々の支援に繋げることが出来る。	法人内の研修だけでなく、行政や他団体主催の研修などオンライン形式も含め積極的に参加することでスタッフの資質向上を図っている。研修に参加できなかったスタッフに対しても、参加したスタッフが研修内容を共有する機会を設けている。	今後も引き続き事例検討会、防災、感染症対策、虐待防止などの研修に法人内外含め積極的に参加していく。また、資格取得へ向けての講習の受講なども積極的に行っていく。
2	日々の活動プログラムについて、放課後等デイサービス計画の目標をもとに目的やねらいを設定している。その際には必要に応じて個別活動、集団活動の使い分けをしている。	活動プログラムについて、当日支援前に必ず共有を行っている。その際、子ども同士の関係性や目標設定が適切であるかをスタッフ間で検討し、適宜修正、変更を行っている。また曜日によって担当を分けて立案、作成を行うことでプログラムが固定化しないよう工夫している。	現状、プログラムの立案・作成業務を行っていないスタッフが配置されている。既存の担当スタッフから、プログラム作成時の目標設定や事前の想定等のノウハウや過去のプログラムを伝えて行くことで、人材育成に努める。またそこで学んだスタッフの得意な領域を活かした、新しい個性を持ったプログラムが作成していけるよう業務を割り当てていく。
3	利用児のこれまでの経過や現状の課題などを共有した上で、情報を適宜更新して共有を徹底している。その上で、日々の利用児の様子からそれぞれのスタッフが気づいたことや、保護者からの情報なども共有を重ね、常にそれぞれの利用児の現状に合った関わりが出来るようスタッフ間で共有し支援にあたっている。	保護者からの情報共有や利用児について気にかかったことなどがあつた際には、各スタッフが口頭の共有だけではなく書面等閲覧可能な形で情報を保存し、意識的に確認を行うことで積極的な共有を行っている。	日々の業務の中で、スタッフによって出勤日数や勤務時間が異なるという現状から、情報の伝達にむらが出る部分が課題の一つと考えられる。情報の提供、スタッフの自発的な情報の取得だけではなく、積極的な発信を行っていくことで、情報の漏れがない組織体系を構築していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や利用児童からの利用日の追加ニーズの全ては応えることができていない。	利用日の追加については1日の利用定員の問題や、利用を待機してもらっている児童がいるという現状がある。この件に関しては、定員超過を起こさないためということが挙げられる。これに関しては昨年同様の課題であるが、フタール岸和田の利用児童の状況としては長期的に継続利用をしている利用児童の多さから、空きが出にくい状況である。また支援の質の低下を防ぐため、若干の余裕を持たせた人員を心掛けてきた。	現在募集中のスタッフの人材を安定して確保を行うことで、若干ではあるが利用児童の増員が見込まれる。またこの1年の間に若干のスタッフの人員増が見られ、昨年以上に支援の質を低下させることなく利用児童を増員を行うことができる状況にあると考えられる。そこでさらに体制を整えた上で今後も少しでも保護者や利用児童のニーズにこたえて利用枠を確保していきたい。
2	保護者からの送迎希望のニーズのすべてには応えることができていない。	送迎についても希望をいただき待機してもらっている現状だが、そのすべてには応えることができていない。その要因としては、送迎スタッフの安定した配置の難しさにあると考えられる。	放課後等デイサービスの帰りの送迎時間が遅く、利用児童の送りに携わる人員の確保が必要と考えられる。これについては引き続き人材確保の取り組みを継続していきつつ、今後は児童発達支援の事業所のフタール岸和田と連携をしていきつつ、送迎枠の拡充を狙った取り組みを行っていく。
3	家族に対しての家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)について、保護者から相談があつた際には必要に応じて助言しているが、家族向けの研修の機会を設けることは出来ていない。	これまでは、自己評価表や日々の保護者とのやりとりの中で、家族支援プログラム等についてのニーズがなかったため、実施には至っていない。	ニーズとしては多くはないが、個々に希望する声が出てきているという現状を踏まえて、その内容のニーズやメンバーなどを精査した上で、保護者のニーズに合った家族支援を提供していきたい。